

平成15年度 施策評価表

○総合計画における位置付け等

平成15年5月26日記入

基本目標	I ▼ 学びあいあたたかさのある福祉文化都市をめざして	施策コード	18120
政策名 (章)	第8章 国際平和と人権が尊重される社会を実現します	評価担当課	企画部 ▼
基本施策名 (節名)	第1節 世界とともに生きる地域社会の実現		文化国際課
施策名	国際交流・国際協力の推進	課長名	大房 薫

1 施策の概要・目的

世界に開かれた地域社会づくりをめざし、2つの友好都市(中国・無錫市、カナダ・トロント市)との教育・文化・スポーツ・青少年・経済など様々な分野での交流を通じ、友好都市との相互理解と国際親善を推進します。
また、世界各都市との幅広い交流や協力を通じ、市民一人ひとりが「地球市民」としてのグローバルな視野に立って判断し、「ともに生きる社会」をめざして行動できるよう市民主体の国際化や国際理解を推進します。

2 施策の現状

友好都市の無錫市及びトロント市とは、平成14年度までに相互訪問により延べ4,912名の市民が交流しています。近年では、永年の交流の成果により市民団体独自の交流も盛んになっています。
また、相模原市では、国際交流基金の果実を活用した「国際化推進事業支援金制度」により、市民団体が市民を対象に行う国際交流事業や国際協力事業に対して支援をしています。

3 総事業費及び人員

(1) 施策に要している総事業費

2,436 千円……構成事務事業全体の事業費合計(人件費含む)

(2) 市民1人当りの事業費

4 円/人……人口は、61.6 万人とした。(平成15年4月1日現在人口)

(3) 全施策中の順位(事業費)

この施策の市民一人当たり事業費は、全123施策のうち、第 119 番目です。

(4) 施策に要している人員

0.02 人……構成事務事業全体の人員合計

4 評価指標

指標	指標名および指標式	指標の意図	現状値と目標値			目標
			現状	目標	達成度	目標年度
指標1	友好都市交流者数の伸び率 今年度交流者÷昨年度交流者×100≥100%	交流者数が一人でも増加しているか	103.7 % 単位	0 50 100	103%	22
			100以上 % 単位		103%	達成度
指標2	国際化推進事業支援金の予算の執行率 実績額÷予算額×100	市民レベルでの交流状況を見る	70.3 % 単位	0 50 100	70%	22
			100 % 単位		70%	達成度
指標3			単位	0 50 100		目標年度
			単位			達成度
						%

5 必要性…市民ニーズに合っているか、行政需要の変化に対応しているか

今、世界が課題としている国と国との関係や人種や言葉の壁などを超えて、人間の尊厳や人間同士の絆を深めるためには、市民一人ひとりが世界の人々と友好関係を築き、お互いの違いを認め合うことが大切です。その意味で、友好都市をはじめとする世界各都市との交流を通じて国際交流、国際理解を推進することは、世界平和をより身近なものとする上で有効なものであり、今最も求められています。

6 有効性…期待される効果があがっているか

市が主催する交流プログラム以外に、市民団体が独自に友好都市を訪問し交流するなど機会が増えていることなどからも、友好都市交流の成果は上がっていると判断できる。
また、国際化推進事業支援金を利用した市民団体の行う事業も、毎年多様な展開がされていることから、成果は上がっていると判断できる。

7 効率性…費用対効果が優れているか、もっと大きな効果が得られるものはないか

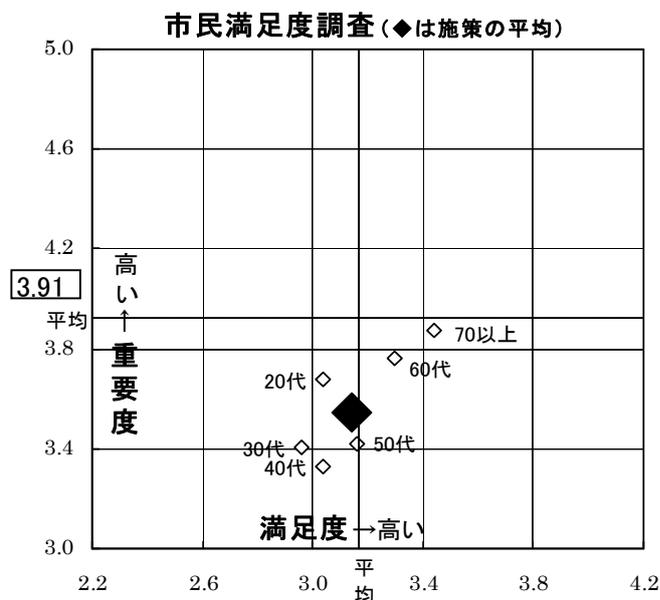
市民団体への情報提供、国際化推進事業支援金などにより市民団体とのパートナーシップにより多様な事業を展開していることなどから、費用対効果は優れていると判断できる。

8 市民満足度調査結果からの分析(平成15年度調査)

- ◆この施策の満足度は、3.143で、調査した51施策の中で28番目です。
- ◆この施策の重要度は、3.545で、調査した51施策の中で45番目です。
- ◆この施策の改善要望度は、0.285で、調査した51施策の中で42番目です。

◇年齢別にみると、満足度及び重要度ともに60歳代以上で高く、30歳代及び40歳代で低くなっています。

市民満足度調査は、基本施策51項目(節)について調査しています。したがって、上位の基本施策が同じ場合は同じ内容となっています。(「○総合計画における位置付け等」参照)

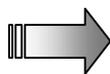


9 課題…施策を実現するにあたり、課題となっていること等

施策を実現するにあたり財政的な課題はあるものの、市民団体との連携のもと、より多くの市民参加が得られるよう多彩な事業展開をして行く必要がある。
また、近年、相互訪問などの国際交流を進めてゆく上では、国際テロ、あるいは伝染病の問題など予期せぬ課題に直面するケースが多くなっている。

10 今後の方向性(一次評価)

今後の方向
<input checked="" type="checkbox"/> 拡充する
<input type="checkbox"/> 現状維持する
<input type="checkbox"/> 見直し



説明及び具体的内容

今後、新世紀さがみはらプランに示す新たな友好都市との交流も視野に入れ、市民主体の世界各都市との幅広い交流、協力等により国際交流・国際協力を推進する。

11 2次評価

説明

<input type="checkbox"/> A	引き続き海外の友好都市との交流を行う。なお、あらゆる分野においてグローバル化が進む中で、将来的には、政策形成や行政サービスの分野における自治体レベルでの国際協力も視野に入れること。
<input type="checkbox"/> B	
<input checked="" type="checkbox"/> C	

12 外部意見

説明

	事業の必要性・有効性を検証するとともに、PR等を積極的に行うべきである。

